

令和 6 年 5 月 31 日現在

機関番号：32689

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2023

課題番号：19K12486

研究課題名（和文）在タイ日本人の個人文書を初めて本格利用した近代国家移行期タイの社会構造の実態解明

研究課題名（英文）The first full-scale use of personal documents of Japanese nationals in Thailand to elucidate the social structure of Thailand during its transition to a modern state

研究代表者

村嶋 英治（Murashima, Eiji）

早稲田大学・国際学院（アジア太平洋研究科）・名誉教授

研究者番号：70239515

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：過去5年に亘る調査研究の成果として、村嶋英治『南北仏教の出会い：近代タイにおける日本仏教者、1888 - 1945』（早稲田大学アジア太平洋研究センター、2023年9月、+771頁、ISBN978-4-9106-0325-4）を刊行した。本書は、1888年に近代タイを訪問した最初の日本人仏教者生田得能以来、1945年までの間に、訪タイした日本人仏教者を、先づ外務省記録に保存されている旅券下付表の中から、極力全員拾い出して概説した。次に、日本語及びタイ語での記録が多い訪タイ日本仏教者22名に関して、彼等の記録を用いてタイ仏教社会における彼等の活動及び彼等が見たタイの社会構造を明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、近代日本の仏教者の南方（テラワータ＝上座部）仏教圏との交流を、日本語タイ語英語等の文献及びインタビュー記録等によって、詳細かつ広範に明らかにしている。このように南北仏教双方の多量の資料を用いて、近代日本仏教者多数のテラワータ仏教圏における経験と彼等のテラワータ仏教社会に関する見解を明らかにした研究は、既存研究には見られないものであり、テラワータ仏教社会、テラワータ仏教近代史および日本の近代仏教などの研究分野において新たな知見を増大させた貢献は少なくない。

研究成果の概要（英文）：Eiji Murashima, Encounters between North and South Buddhism: Japanese Buddhists in Modern Thailand, 1888-1945 (Institute of Asia-Pacific Studies, Waseda University, September 2023, + 771 pages, ISBN 978-4-9106-0325-4), is the result of research conducted over the past five years. This book outlines the Japanese Buddhists who visited Thailand from 1888, when Ikuta Tokunoh was the first Japanese Buddhist to visit modern Thailand, to 1945, picking up as many Japanese Buddhists as possible from the Ministry of Foreign Affairs records of passport issuance. The 22 Japanese Buddhists, many of whom are recorded in Japanese and Thai, are then used to clarify their activities in Thai Buddhist society and the social structure of Thailand as seen by them.

研究分野：東南アジア大陸部を主とする地域研究

キーワード：南北仏教近代交流史 テラワータ仏教近代史 タイ近現代史 在タイ邦人

## 1. 研究開始当初の背景

近代国家移行期（本研究では主に 1880-1940 年代を対象期間とする）のタイ（シャム）国の社会構造（とりわけ、社会階層秩序、パトロン・クライアント関係、多民族社会的性格など）の実態・実相に接近するために、従来利用されることがない独自のソースであり、かつ他にはない詳細な情報が含まれると考えられる、在タイ日本人の個人文書利用に着眼した。これによって法制面に偏った既存研究を超え、タイ社会構造の生きた実態を明らかにすることを目標とした。在タイ日本人の属性は多様であるが、本研究では、在タイ日本人の中でも、一定規模の人数を有し、かつ知識層として記録や報告が少なからず残っている仏教者に主に焦点を当てることとした。

## 2. 研究の目的

上述したことの繰り返しとなるが、近代タイの社会構造の実態の一端を明らかにすることが、本研究に目的である。そのための資料として、実際に近代タイ社会に居住し、身を以てタイ社会を体験した日本人の記録・回想等を用いた。

## 3. 研究の方法

主な研究資料である日本語及びタイ語の資料収集は、次の方法によった。

日本語資料は、外務省外交史料館にて直接閲覧した外に、ウェブ上にあるアジア歴史資料センターの諸資料、検索の精度が飛躍的に向上している国立国会図書館のサーチサイトでの検索と複写、雑誌記事等を ILL(Interlibrary Loan)による取り寄せ、仏教関係の雑誌は所蔵する大学図書館に限られている、取り寄せ可能なものは ILL によったが、不可能なものは直接東京、京都に所在する仏教関係の大学を訪問して閲覧した。時院が所蔵する個人の記録等は、電話や手紙で問い合わせ可能な簡単なものを除き、寺院を直接訪問してインタビューを実施し同時に閲覧の機会を得た。

なお、対象時代の新聞記事は、朝日新聞（東京、大阪）、読売新聞のみしか精度の高い検索はできないので、その他の新聞については、国会図書館もしくは早稲田大学図書館で直接原紙（マイクロフィルム）に当たった。例えば、大阪毎日新聞、国民新聞、時事新報、新聞日本等々である。

他方、タイ語資料については、タイ国立公文書館での関連資料の閲覧複写、タイの大学図書館等での文献調査、急速に整備されつつあるタイのデジタル古書籍の閲覧例えばタマサート大学の TU Digital、チュラーロンコーン大学図書館稀観本 e-books、Digital ワチラーン図書館、創刊以来の巻号がオンラインで利用できるようになったタイ官報の閲覧、タイ語の YouTube（多数）で功德などの宗教儀式を長時間実写したものや新米出家者へ三衣の着付けや作法等を詳細に説明したものなど。最後の資料は、外国人文化人類学者が観察したことを記述したものよりも、遙かに情報量が多く且つ情報の質が高いので、研究資料として今後その重要性が認識されるものと思われる。

以上の方法により多角的に収集した諸資料を詳しく読み込み、1888 年から 1945 年間の訪タイ日本人仏教者中の代表的な人物 20 数名を選び出し、それぞれについて経歴、訪タイの理由、タイにおける諸活動、彼等が見たタイの仏教等を分析的に明らかにした。

## 4. 研究成果

研究成果として、本科研費を受領した 2019 年度から 2023 年度の間に、14 本の論文を発表した（詳細は村嶋英治のリサーチマップ参照）。最終年度には、この間の研究成果を総合した『南北仏教の出会い：近代タイにおける日本仏教者、1888-1945』（早稲田大学アジア太平洋研究センター、2023 年 9 月、+771 頁、ISBN978-4-9106-0325-4）を発表した。本書は、印刷版の他にデジタル版を早稲田大学リポジトリにおいて公開している。また、同書の事項及び人名索引を村嶋英治のリサーチマップにあげている。本書は非売品であるの

で、書店等で購入することはできないが、村嶋英治のメール ([murashim@waseda.jp](mailto:murashim@waseda.jp)) 宛に連絡すれば、着払いの送料以外は無償で寄贈することができる。

同書の概要を示すために、その目次の一部を下に記す。

## 目次

### はじめに

#### 第1章 旅券下付表から見た訪タイ日本人仏教者一覧 (1888-1945) 1頁

真如法会のシャム・ラオス探検計画 (1897年)

社会主義僧佐々木徳母の在タイ (1900-1903年)

シャムに立ち寄りなかつた大谷探検隊

ニセ蓮枝のタイ仏教調査計画? (1904年)

大谷尊由のタイ訪問 (1907年)

釈興然一行の在タイ11ヶ月と和田慶本の沙弥出家 (1908年)

訪タイしなかつた大谷光瑞

岡本春岳の東南アジア・インド修行 (1918-1929年)

神月徹宗 (妙心寺派) の訪タイ (1922年)

龍谷大学教授増山顯珠の訪タイ (1927年)

日蓮寺使節団の答礼訪問 (1928年)

日蓮寺派遣留学生、泉虎一 (1929-31年)

経谷孝道真宗本派シンガポール開教師の訪タイ仏教調査 (1931年9月)

大本教のタイ進出、寛清澄 (1932-35年)

瀧川虎若の天理教初伝道 (1935年)

秋守常太郎のチェンマイ訪問 (1939年)

上村真肇の訪タイ研究 (1941年)

#### 第2章 最初のタイ留学日本人織田得能 (生田得能) と近代化途上のタイ仏教 45頁

##### 1 はじめに

##### 2 「生田得能自伝」全文と解説

##### 3 得能の師範学校生徒・教員時代 (1877-1882)

##### 4 三重県津に逗留時代の得能 (1886-1887年2月)

##### 5 得能の暹羅留学を可能にした東京の仏教リーダーたち

##### 6 来日したパーサコーラウォンとの仏教問対 (1888年2月10、11日)

##### 7 タイで最初の仏教案内出版物『仏法知識教本』(パーサコーラウォン著、1878年)

##### 7.1 プラヤー・パーサコーラウォンの略歴

##### 8 生田得能、善達法彦の訪タイ

##### 8.1 善達法彦 (1864年5月30日生 1893年7月9日没) の略歴

- 9 得能来タイ時のタイ仏教学習環境
  - 9.1 仏教学校は未だ開校せず
  - 9.2 仏教書の出版事情
  - 9.3 タイ文字版パーリ語三蔵未だ刊行されず
- 10 得能のナンスー・サデーニキッチャーヌキット (หนังสือแสดงกิจจานุกิจ、大小諸事象講義) 読破
  - 11 バンコクの得能
    - 11.1 小乗教に出家せず
    - 11.2 得能来タイ時前後の破戒僧と五世王の勅命
    - 11.3 得能の暹羅国内旅行
    - 11.4 得能の師、得能が交流したタイ人
    - 11.5 公認教になった大乘仏教 (安南宗、華宗)
      - 11.5.1 安南宗の公認
      - 11.5.2 華宗の公認
      - 11.5.3 大乘仏教の監督官庁を文部省に変更
  - 12 チャンドルダッタ親王 (ウイウィット親王) と日本仏教者との交流
  - 13 タマユット派出家を回避した得能
    - 13.1 タマユットとマハーニカーイ
  - 14 帰国後の得能
    - 14.1 帰国後直ちに、疑難募集
    - 14.2 友人赤堀又次郎の見た帰国後の得能
  - 15 樂鴨監獄教諭師事件と除名僧織田得能
  - 16 得能の東亜仏教会組織 (1901) と東洋宗教会議発起 (1902)
  - 17 結び

### 第3章 釈宗演、「純正仏法」国シャムでの幻滅 (1889) 147頁

- 1 雲水時代の釈宗演のセイロン渡航
- 2 セイロン仏教におけるシャム派、アマラブラ派の誕生
- 3 バンコク王朝期のシャム・セイロン間の仏教交流
- 4 セリスマナチッサ (Bulatgama Sumana) の仏教復興運動
- 5 1886年5月のセリスマナチッサ、般若尊者らの来タイ
- 6 グネラトネのタイ・日本訪問計画と釈興然の渡錫
- 7 1889年7月にシャムに転地した宗演が受けた「嚴待・冷遇」
- 8 ワチラーナワローロット親王の略歴と同親王への批判
- 9 「宗演師の雲水談 (一) ~ (十)」

**第4章 上村（かみむら）観光のバンコクの安南寺滞在（1897 - 1898） 203 頁**

- 1 上村観光とバンコクの新設日本公使館
- 2 上村のバンコクの友人、重田友介、政尾藤吉ら
  - 2.1 重田友介
  - 2.2 政尾藤吉
- 3 上村観光著「暹羅の仏教」
- 4 上村観光著「南天旅窓日記」
- 5 二度目の来タイ以後

**第5章 留学僧、大業成らず：浄土宗派遣留学僧概旭乗と遠藤龍眠（1898 - 1906） 227 頁**

- 1 真如法会と概旭乗
- 2 暹羅老撾安南三国探検直後に岩本千綱が提起した真如法会
- 3 岩本千綱はタイ仏教の出家者とは言えない
- 4 概旭乗の経歴
- 5 概旭乗のシャム渡航
- 6 概旭乗の1898年の暹羅近信二通
- 7 タイ仏教への敬意と探究心とを喪失した独善的概旭乗：1899年の暹羅近信より
- 8 概旭乗の仏骨奉迎団批判
- 9 ワット・サケートと日本人僧
- 10 暹羅開教へ再渡航
- 11 シャム帰化外国人第一号に
- 12 遠藤龍眠安南寺からワット・サケートに転錫
- 13 「暹羅留学生に関する遠藤龍眠氏の建白」
  - 1.4 仏骨奉迎における遠藤龍眠
- 15 護暹山日本寺創立の提言
- 16 マニラの南天寺

**第6章 稲垣満次郎と石川舜台の仏骨奉迎に因る仏教徒の団結構想：ピブラワ仏骨のタイ奉迎から日本奉迎まで（1898 - 1900） 295 頁**

- 1 ベッペの仏骨発掘
- 2 タイ側の真正仏骨かどうかの検討と受領の是非の議論
- 3 タイの仏骨奉迎とロシア、ビルマ、セイロンへの分与
- 4 稲垣満次郎公使の対タイ政府打診と日本外務省への事後的通知
- 5 岩本千綱の大谷派石川舜台への通報
- 6 石川舜台の仏骨奉迎の意図
- 7 石川舜台の岩本・大三輪シャム派遣（以下略す）

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計14件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 14件）

1. 著者名 村嶋 英治	4. 巻 48
2. 論文標題 三国探検・仏骨奉迎後の岩本千綱：タイ王族・貴族の1903年紙幣偽造への加担	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 アジア太平洋討究	6. 最初と最後の頁 95～151
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.57278/wiapstokyu.48.0_95	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 村嶋 英治	4. 巻 47
2. 論文標題 近代タイにおける大乘仏教と「小乗仏教」：タイ国王の国内大乘仏教徒処遇及び日本の大乘仏教がタイ仏教呼称に及ぼした意図せざる影響	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 アジア太平洋討究	6. 最初と最後の頁 49～72
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.57278/wiapstokyu.47.0_49	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Eiji Murashima	4. 巻 111-2
2. 論文標題 Comments on Katherine Bowie's Study of Khruba Srivichai	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Journal of the Siam Society	6. 最初と最後の頁 23～28
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 村嶋 英治	4. 巻 46
2. 論文標題 タイにおける組織的日本文化広報の先駆者：日泰文化研究所主事平等通昭（通照）の「興亜興仏」的文化交流事業（1940?43年）	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 アジア太平洋討究	6. 最初と最後の頁 1～54
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.57278/wiapstokyu.46.0_1	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 村嶋 英治	4. 巻 46
2. 論文標題 シャム(タイ国)における「からゆきさん」の歴史：1885年?1920年	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 アジア太平洋討究	6. 最初と最後の頁 55～73
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.57278/wiapstokyu.46.0_55	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 村嶋 英治	4. 巻 45
2. 論文標題 クルーバー・シーウィチャイの第2回バンコク軟禁(1935年11月?36年5月)の背景, 過程及び結末: 中央サ ンガ・エリートによるシーウィチャイ派弾圧処分の徹底	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 アジア太平洋討究	6. 最初と最後の頁 1～43
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.57278/wiapstokyu.45.0_1	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 村嶋 英治	4. 巻 42
2. 論文標題 北タイのカリスマ僧, クルーバー・シーウィチャイの1920年バンコク召喚事件の史実をめぐって	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 アジア太平洋討究	6. 最初と最後の頁 21～37
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.57278/wiapstokyu.42.0_21	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 村嶋 英治	4. 巻 42
2. 論文標題 南清日本仏教布教者のシャム華僑布教渡航: 20世紀初頭の中国・タイにおける日本仏教布教の共通性と布 教権問題	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 アジア太平洋討究	6. 最初と最後の頁 39～106
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.57278/wiapstokyu.42.0_39	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 村嶋 英治	4. 巻 43
2. 論文標題 稲垣満次郎と石川舜台の仏骨奉迎に因る仏教徒の団結構想：ピブラワ仏骨のタイ奉迎から日本奉迎まで（1898?1900）	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 アジア太平洋討究	6. 最初と最後の頁 215～257
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.57278/wiapstokyu.43.0_215	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 村嶋 英治	4. 巻 44
2. 論文標題 セイロン・シャム間の仏教交流と釈宗演のタマユット派比丘出家の蹉跎（1889年7月）	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 アジア太平洋討究	6. 最初と最後の頁 1～50
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.57278/wiapstokyu.44.0_1	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 村嶋英治	4. 巻 40
2. 論文標題 1897 - 1945年における在タイ日本人の人数、職業の推移：在バンコク領事の年次報告をもとに	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 アジア太平洋討究	6. 最初と最後の頁 177 - 225
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 村嶋英治	4. 巻 41
2. 論文標題 最初のタイ留学日本人織田得能（生田得能）と近代化途上のタイ仏教	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 アジア太平洋討究	6. 最初と最後の頁 1-87
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 村嶋英治	4. 巻 39号
2. 論文標題 タイ国における第二次世界大戦終結迄の日本語教育の歴史：未利用資料を中心に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 アジア太平洋討究	6. 最初と最後の頁 1-59
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 村嶋英治	4. 巻 Vol.6 no.2
2. 論文標題 Ton khamnoer Lathichatniyom Chin nai Sangkhom ChaoChin nai Prathet Thai	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 The Thammasat Journal of History	6. 最初と最後の頁 19-79
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

[学会発表] 計2件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 村嶋英治
2. 発表標題 クルーパー・シーウィチャイの2回のバンコク召喚 (1920年、1935年) の背景 : Bowie教 授の所説への疑問
3. 学会等名 日本タイ学会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 村嶋英治
2. 発表標題 [天田六郎氏遺構、シャムの三十年など]にみる、1900 - 1930年代の在タイ日本人医業者
3. 学会等名 日本タイ学会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 村嶋英治	4. 発行年 2023年
2. 出版社 早稲田大学アジア太平洋研究センター	5. 総ページ数 778
3. 書名 南北仏教の出会い：近代タイにおける日本仏教者、1888-1945	

〔産業財産権〕

〔その他〕

早稲田大学リポジトリ <a href="http://waseda.repo.nii.ac.jp/">http://waseda.repo.nii.ac.jp/</a>
---

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------